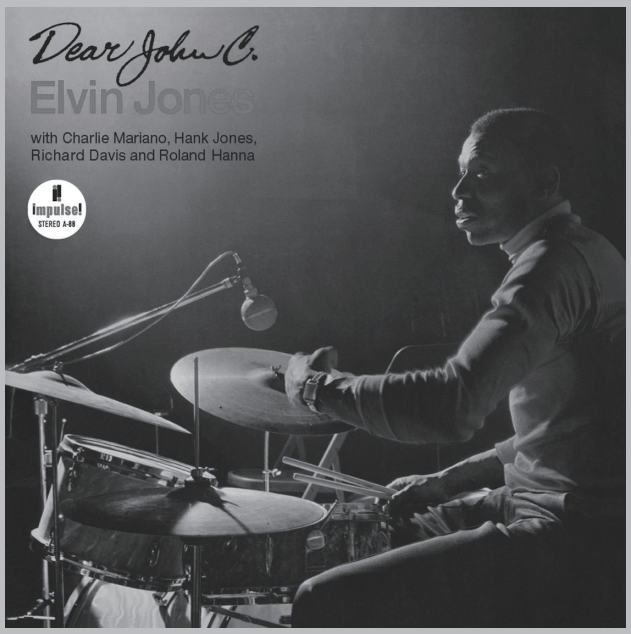
I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 38
Elvin Jones【エルヴィン・ジョーンズ】
～コルトレーンを支え、大の親日家だった名ドラマー～



写真提供：ユニバーサル・ミュージック（『ディア・ジョン・C』エルヴィン・ジョーンズ）

Profile

1927 年 9 月 9 日、米国ミシガン州ポンティアック生まれ。本名は Elvin Ray Jones。ジャズ・ピアニストのハンク・ジョーンズ（1918-2010）、ジャズ・トランペッターのサド・ジョーンズ（1923-1986）との 3 兄弟の末弟として育つ。2 歳までにドラムの魅力に心を奪われたと本人が語っている。46 年から 49 年までに軍に入隊後、音楽家としてのキャリアを開始。50 年代前半はデトロイトでビリー・ミッチェルのバンドで活動。55 年にニューヨークに進出し、チャールズ・ミンガスやバド・パウエル、マイルス・デイヴィス、ソニー・ロリンズ等と共演。その後、60 年から 66 年まで一躍名を馳せることになるジョン・コルトレーンのグループで活躍。ジミー・ギャリソン（b）、マッコイ・タイナー（p）と共に黄金のカルテットを形成し、コルトレーンの多くの名盤に参加し、数々の名演を残す。60 年代にはブルーノート・レーベルを中心にウェイン・ショーターやグラント・グリーン、ラリー・ヤング等のレコーディングに参加。その後は主に自身のグループ「ジャズ・マシーン」等を率いて活動。1966 年の来日を機に親日家となり、「ジャズ・マシーン」のメンバーとして、辛島文雄（p）、向井滋春（tb）等、日本人プレイヤーを迎え入れた。晩年はクリニック等で後進の指導にあたり、毎年年始に新宿ピットインでコンサートを行うのが恒例になっていた。2 番目の妻は日本人のケイコ・ジョーンズ。異なった数種類のリズムを交錯させ、凄まじい迫力と共にうねるような独特のスイング感を生み出し、共演者に無限のインスピレーションを与え、60 年代以降の革新的なドラム奏法を確立した。2004 年 5 月 18 日、米国ニュージャージー州イングルウッドの病院で心臓病のため死去。享年 76 歳。

EJ's Great Album

『バラード』『至上の愛』をはじめ、ジョン・コルトレーン・カルテットット時代の名盤は勿論、リーダーとしても下記の作品以外にも多くの名盤を残しているので聴いてみて欲しい。

エルヴィンのブルーノートにおける初リーダー・アルバム

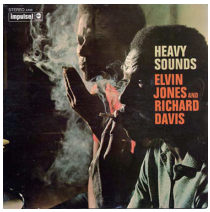
プッティン・イット・トゥゲザー
エルヴィン・ジョーンズ
（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-9238）

エルヴィン・ジョーンズ (ds)、
ジョー・ファレル (ts, ss, fl)、
ジミー・ギャリソン (b)

1. レザ 2. スイート・リトル・マイア 3. ケイコズ・バースデイ・マーチ 4. ヴィレッジ・グリーン 5. ジェイ・リー（他、全 7 曲）

録音は長年活躍したコルトレーン・カルテットを退団してから約 2 年後の 1968 年。ジョー・ファレルとジミー・ギャリソンとのピアノレス、ワンホーンのトリオによる作品。エルヴィンとジミーの強靭なリズム隊が生み出すパワー＆グルーヴ感も最高で、サックス＆フルートで 2 人に挑むかのようなジョー・ファレルのエキサイティングなプレイも必聴。ジャケットの 3 人の表情からも伝わって来るライヴ盤のような迫力と熱気が充満の快作。

エルヴィンとリチャード・デイヴィスの強力な双頭リーダー・アルバム



ヘヴィ・サウンズ
エルヴィン・ジョーンズ＆リチャード・デイヴィス
（ユニバーサル・ミュージック：UCCU-6166）

エルビン・ジョーンズ (ds, g)、リチャード・デイヴィス (b)、フランク・フォスター (ts)、ビリー・グリーン (p)

1. ローンチィ・リタ 2. シャイニー・ストッキングス 3. M.E. 4. サマー・タイム 5. エルヴィンズ・ギター・ブルース（他、全 6 曲）

煙モクモクのジャケットも強烈なインパクトがあるこの作品はエルヴィンとベーシスト、リチャード・デイヴィスとの双頭リーダー・アルバム。1曲目の「ローンチィ・リタ」からゴングと同時にヘビー級ボクサー並みのエルビンとリチャードのどつき合いが始まる様だ。重くて黒いエルヴィンのドラムとリチャードのベースに終始圧倒される。エルヴィンの貴重なギター・プレイが聴ける「エルヴィン・ギター・ブルース」も聴き所。1968 年録音。

エルヴィンの45歳の誕生日に収録された白熱の傑作ライヴ盤

エルヴィン・ジョーンズ・ライヴ・アット・ザ・ライトハウス Vol.1
エルヴィン・ジョーンズ
（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-50536）

エルヴィン・ジョーンズ (ds)、デイヴ・リーブマン (ts, ss)、スティーヴ・グロスマン (ts)、ジーン・パーラ (b)

1. イントロダクション 2. ファンシー・フリー 3. ニュー・ブリード 4. スモール・ワン 5. サンブラ 6. マイ・シップ（他、全 8 曲）

1972 年 9 月 9 日、エルヴィン 45 歳の誕生日に行なわれたライトハウスでのライヴ音源を収録。ジョン・コルトレーン研究家としても有名で、共にマイルス・デイヴィス・グループに縁があるテナー＆ソプラノ・サックス奏者デイブ・リーブマンとスティーブ・グロスマンが参加。2 人のサックス・バトルも見事で、エルヴィンのドラムも凄まじい。“ 魚ジャケ ” としても知られる傑作で、同日のライヴを収録した『Vol.2』も必聴。

俳優エルヴィン・ジョーンズ

意外と知られていないが、エルヴィンは俳優として映画出演歴がある。1971 年公開のジョージ・イングランド監督の作品で、強烈なロック・ビートに乗って物語が展開する異色西部劇映画『ウエスタン・ロック　ザカライヤ（原題：Zachariah）』に大強盗ジョブ・ケイン役で出演し、圧巻のドラム・ソロも披露している。この作品には、カントリー・ジョー＆ザ・フィッシュ、ジェームズ・ギャング、ホワイト・ライトニン等のミュージシャンの他に、若かりし頃のドン・ジョンソンも出演。エルヴィン出演の経緯は不明だが、流石の強面で演技も渋く、必見です！

大の親日家エルヴィン

1966 年に『ザ・センセーショナル・ドラム・バトル』で初来日したのを機に親日家となり、その後日本人女性（ケイコ・ジョーンズ）と結ばれ、88 年には長崎で半年間暮らしていたこともあるエルヴィン。広島と長崎でのチャリティー・コンサートの他、晩年の新宿ピットインでのコンサートも恒例だった。辛島文雄、川崎燎、武田和命、山下洋輔、菊地雅章、鈴木良雄、鈴木勲、大森明、日野皓正、向井滋春、板橋文夫、竹内直、椎名豊、高橋知己、田中武久等、多くの日本人ジャズマンと共演を果たし、日本にエルヴィンの魂を残してくれている。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.11
~ The Girl From Ipanema【イパネマの娘】~

この曲は 1962 年にアントニオ・カルロス・ジョビン（トム・ジョビン）が作曲したボサノヴァの歌曲で、ポルトガル語の詞はヴィニシウス・ヂ・モライス、英語詞はノーマン・ギンベルが作詞した。「イパネマ」はブラジルのリオデジャネイロ市内にあるイパネマ海岸のこと。ビートルズの「イエスタデイ」等に次いで、世界中で多くカヴァーされたポピュラー・ソングの一つで、アストラッド・ジルベルトが歌った『ゲッツ／ジルベルト』（右参照）が一番有名。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

スタン・ゲッツ＆ジョアン・ジルベルト『ゲッツ／ジルベルト』
オスカー・ピーターソン『プリーズ・リクエスト』
サラ・ヴォーン『ラヴァーズ・コンチェルト』
パット・メセニー『ホワッツ・イット・オール・アバウト』
ヴァリアス・アーティスツ『イパネマの娘たち』